



「3.11 からの出発」

「3.11 からの出発」

ご寄付の経理区分の移行について



「ちいさいおうち」第2ステージへ

陸前高田子ども図書館「ちいさいおうち」は、2011年11月25日の開館以来、NPO法人うれし野子ども図書室の分館として運営されてきましたが、4月からは新たなスタートを切りました。今まで関わってきた人たちが、地元の方々と一緒にボランティア団体を立ち上げ、新生「ちいさいおうち」を運営していくこととなりました。代表は、高橋更苗さんです。高橋さんは、当館が派遣していた専任司書の中井佳織さんと一緒に働いてこられた方です。

当館は、震災で壊滅的な被害を受けた市立図書館が再建されるまで、うれし野子ども図書室に協力して、基本図書を寄贈し、専任司書を採用して人材面で活動を支援してきました。また、これまでの活動の様子をニュースレターや本欄にて逐次ご報告してきました。昨年7月、新しい陸前高田市立図書館が開館したことにより（155号参照）、私たちの「ちいさいおうち」への支援活動はこの3月で区切りをつけ、今後は側面からの援助にまわることになります。4月からは、週3日開庫の予定とのことです。近隣の方たちによって、より家庭的な読書と憩いの場になることを願っています。

陸前高田市立小友小学校への訪問、図書の寄贈は、2020年度まで続けていきますので、引き続きご支援よろしくお願ひします。（小関知子記）

小友小学校訪問

2018年2月5日に、松岡享子名誉理事長、小関知子理事、小林いづみ評議員（広島県呉市在住）、池添トモ子さんが、陸前高田市立小友小学校を訪問しました。今回初めて陸前高田市を訪れた小林さんと池添さんのご報告です。

やっとかなった陸前高田訪問、遅すぎたのではと思っていましたが、かさ上げた更地がひろがる現状は、私の想像をはるかにこえていて、衝撃を受けました。何も知らず、知ろうともしていなかった自分に落ち込みました。けれども、目を輝かせ、お話の世界に入りこんで聞いてくれた小友小学校の子ども達との時間が、私と被災地の距離を縮めてくれました。本当に行けてよかったと思います。（小林いづみ記）

かさ上げ地に風花の舞う朝でしたが、真っ直ぐ届く元気な挨拶にポッと温まりました。お話に聞き入り、はにかんだ笑顔で楽しんでくれた小友の子たちのこと、彼らの故郷のことを、私の周りの子どもたちにも誠実に伝えたいと思います。（池添トモ子記）

2011年、東日本大震災直後より発足した復興支援「3.11からの出発」に対して、これまで多くの方々からお力添えをいただきありがとうございます。おかげさまで、NPO法人うれし野子ども図書室分館・陸前高田子ども図書館「ちいさいおうち」への資金援助や、小友小学校への訪問と全生徒への本の贈呈、出張講座キャラバン in 宮城などを行うことができました。

本プロジェクトは当初の計画どおり、2020年度末まで継続してまいります。これからは、対象地域を全国に広げ、被災地域等への本の贈呈や講師派遣などを行う支援プロジェクトを事業の柱として位置付けていきたいと考えております。

つきましては、従来、経理区分上「指定寄付」という項目で受付けてまいりました「3.11からの出発」へのご寄付は、2018年4月より「一般寄付」へ移行させていただきます。ご寄付の用途についてご要望のある方はお書き添えください。ご希望に沿うよう活用させていただきます。

●一般寄付：当館の活動全般にあてられます

- ・かつら文庫の維持管理
- ・児童室、資料室の運営
- ・石井桃子基金（子どもと本の世界で働くことを志す若い人への支援）
- ・3.11からの出発
- ・在日日系ブラジル人の子どもたちへの読書支援
- ・当館の施設維持
- ・刊行物の編集・出版、広報宣伝 など

* 2018年3月末までにお寄せいただいた「3.11からの出発」指定寄付につきましては、東日本大震災の復興支援のために使わせていただきます。

* 寄付専用の郵便振替用紙は、当面、従来の項目のままですが、上記の区分に振り分けさせていただきますので、ご了承くださいませよう、よろしくお願ひいたします。

* 当館への寄付金、賛助会費は、所得税、法人税の税制上の優遇措置が受けられます。

